

# NO.18

## 自

ら5億4000万円を株や外国債などで運用し、

有料メルマガを約2000人の読者に毎週配信している武蔵野学院大学大学院特任教授の山崎和邦さん。その投資法は至って明快。「大底の近辺で買って、大天井の近辺で売る」だ。大天井と大底をヒタリとは当てられないが、圏内は察知できるとして、5つのポイントを示す。

このうち3番目は山崎さん自身が考案したもの。人々は「山崎指数」と称する。東証1部の時価総


### 5つのポイント

1. 買いと売りが拮抗した状態で、相場の上下幅が小さいまま、日数だけが経過する「日柄調整」が起きる
2. 前回の大底圏の2~2.5倍が大天井圏、前回の大天井圏の0.4~0.5倍が大底圏
3. 東証1部の時価総額が個人現預金の6割以上なら大天井圏、4割以下なら大底圏
4. 東証1部の時価総額が名目GDP(国内総生産)の1.2倍以上なら大天井圏
5. 強気が大勢なら大天井圏、弱気が大勢なら大底圏




額が個人現預金の6割以上なら「大天井圏」、4割以下なら「大底圏」と判定する。

4番目は、ウォーレン・バフェットが考案した「パフェット指

# メルマガ読者2000人の投機家



**山崎和邦さん**

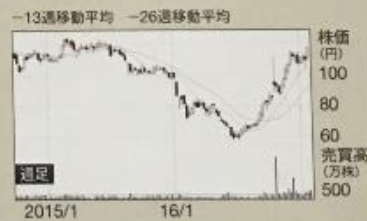
<b>name</b>		
<b>age</b>	70代	<b>residence</b>
		東京都在住
<b>職業</b>	兼業投資家	
<b>投資歴</b>	55年余り	
<b>information</b>		
	有料メルマガ週報「投機の流儀」	
	著書「投資で勝ち続ける買者の習慣」/日本実業出版社	
	サイト 山崎和邦オフィシャルサイト <a href="http://yamazakikazukuni.com/">http://yamazakikazukuni.com/</a>	

### 日本コークス工業の株主上位5位(16年9月末時点)

株主名	比率
1 新日鉄住金	21.7%
2 住友商事	21.7%
3 那須功	3.6%
4 神戸製鋼	3.1%
5 日新製鋼	1.5%

### 日本コークス工業(東1-3315)

株価(単元)	PBR(実績)	PER(予想)	時価総額
111円(100株)	0.78倍	18.5倍	335億6000万円



数」。株式時価総額は名目GDP(国内総生産)と比例して推移するとの前提に立ち、名目GDPからの乖離で割高か否かを判断する。「大底圏から大天井圏にかけてはどの銘柄も2倍から2.5倍に値上がりする。基本的にはどの銘柄でも構わないが、できればよく知っているシンプルな銘柄を選んだ方がいい」と指摘。トヨタ自動車

自身は日本コークス工業(東1-3315)を60円台で買ったが、110円になったので売却した。大株主は、コークスの大口ユーザーである製鉄会社と総合商社。特に製鉄会社にとっては欠かせない存在とはいえ、倒産の懸念は確かに少なそう。次ページから山崎さんのインタビューを掲載する。投資法をさらに詳しく見ていこう。

(東1-7203)や日立製作所(東1-6501)、三菱重工業(東1-7011)などの大型株を挙げる。「2倍や2.5倍に上がったところで売却できれば満足すべきだ。5倍や10倍を取ろうとするから変な銘柄を買って失敗する」

大底圏で買って大天井圏で売るといっても、その間は何もしなくていいわけではない。「投資資金の1~2割の範囲で売買を続けて市場に居続けないと方向感が分からない」。またPBR(株価純資産倍率)が0.5倍を割って倒産の心配がない銘柄は本気で買っていくっていいそう。

# 堅実に売買益を稼ぐなら 狙うのは“もう下がらない株”

投資を始めるに  
あたっての心構え

自分の生き方を決める ▶ 清貧を良しとするのか、自由のためにお金を持つのか

規律ある生活を送る ▶ 無駄遣いを戒め、節約を心掛ける

すぐに取引を始めない ▶ 疑似取引をして、記録を毎日つける

勝ち方1

上昇相場に乗る

総悲観、政策の大きな変化の時に買い時

point  
上昇の目安は2倍

——日本株取引で大損せずに稼ぐためにはどんな注意が必要ですか。方法論に入る前に強調したいのが上に示した心構え。まずどうしてお金が必要なのかを整理する。規律ある生活を送り浪費を戒め、またすぐに売買を始めず疑似体験を積むことも肝心だ。

——冷静で、慎重さを忘れないということでしょうか。

その通り。大きな損を抱え込まないためには必要な資質になる。

では方法論を見ていこう。1つ目は上昇相場に乗る。この50年間で市場平均が2倍以上になる大相場は6回、およそ8年に1回起きている。1990年から2003年の13年間はバブル崩壊後の異常時で、これを例外とすれば37年に6回、つまり6年に1回は大相場が訪れている。老後が20年なら3回は来る計算だ。

株式指数の上昇に乗れば、銘柄

選別の必要がない。今なら日経平均株価などのETF(上場投資信託)を購入すれば済む。

——上昇相場が始まる時期はどのように見極めるのですか。

答えはシンプル。左にある格言の通り、総悲観になっている時。「我も」というのがミソで、己自身も悲観しているのが重要。他人はそうだけど、自分はまた上がると思っっているような時期には手を出さない。

——自分も悲観していながら買うのに必要なのは勇気ですか。

それと冷静で慎重な心で、まずは少し買って様子を見る。そしてこれ以上は下がりそうもないと思ったら、また少し買い足す。株式投資の基本は安く買って高く売る。これ以上、下がらない株を買えば儲けを出しやすい。しかし、誰でもどこで底を打つか分からない。だから少しずつ様子を見る。上昇しても市場平均は2〜2.5倍が天井。欲張り禁物。個別株の場合も2倍の上げを目安にしておく。

野も山も皆一面に弱気なら、阿呆になりて米を買うべし。

格言

## 過去50年に起きた大相場の例

時期	日経平均株価の値幅	主な悲観材料
1967年12月～70年 4月	1250.14 ▶ 2534.45円	英ポンド危機
71年11月～73年 1月	2224.52 ▶ 5359.74円	ニクソンショック
82年10月～85年 7月	6849.78 ▶ 1万3040.10円	世界不況深刻化懸念
86年10月～89年12月	1万5819.55 ▶ 3万8915.87円	円高不況
2003年 4月～06年 4月	7607.88 ▶ 1万7563.37円	りそなショック
12年11月～15年 6月	8160.01 ▶ 2万569.87円	原発問題、1ドル=80円台の円高

## 東芝と日立の株価比較



個別株の取引法は？  
日本を代表し、歴史のある銘柄が危機の時を狙う。社歴の長い銘柄は過去に危機を乗り越えてきた経験や実績があり、倒産するリスクは大きくないはずだから。最近で言えば東芝、少し前ならオリンパスが会計不祥事を起こして株価が下落した時に買った。  
東芝の場合は不正でなく不適切な会計処理とどのメディアも報じ

point  
不祥事の質を見る

勝ち方2  
「日本代表銘柄」のピンチを利用する  
倒産の危機でなければ、投げ売りを控う

清算する株は取引しないのが原則だが、ストップ安が続いた局面に時期を見計らって購入した。ストップ安の続いた銘柄が、寄り付きで売りと買いの株数が完全一致した時は、経験則上では買い。投げ売りが尽き、空売りの買い戻しが始まって上げに転じる可能性があるから。ただし、これは投機的な取引だからお勧めはしない。

16年には三菱自動車の不正が明るみに出ましたが、大株主の構成から三菱自動車の倒産リスクは小さいはずだが、技術の不正だったので買わなかった。しかも何度も犯している。いくら歴史があってもダメだ。  
日本航空が経営破綻した時はどうしました。

ていたので、上場廃止はないと読んだ。仮に上場廃止になってもメーカーの命である技術の不正ではなく、一部トップの会計不祥事なので再上場もあり得るとみた。オリンパスも同様だった。  
東芝株が、日立製作所株の半値以下になることはまれ。15、16年にはめつたにない株価が付いたので、買い時として買った。結果は約2倍になった。



### 南海辰村建設の大株主

南海電気鉄道	57.69%
住之江興業	4.06%
大林組	3.83%

注：2016年9月30日時点

赤字が続く、倒産するようになりリスクがなれば狙える局面だ。  
ベンチャー株は取引しないのですか。  
事業モデルや技術が分からないバイオや医薬品、IT(情報技術)の銘柄には手を出さない。IPO(新規株式公開)で受け取っても、初値売りに徹している。

日本を代表する銘柄以外は取引しないのですか。  
その銘柄は日本代表でなくても、大株主に日本代表銘柄が占めている場合は狙える。例えば新日鉄住金と住友商事が大株主の日本コークス工業や、南海電気鉄道が大株主の南海辰村建設は実際に買った。  
こうした会社は経営危機になっても大株主が吸収合併するなどして倒産させないはず。仮に業績が

point  
額面割れに注意

勝ち方3  
大株主の構成を見る  
いざという時に救済の手を差し伸べる

不振になって株価が下落しても、倒産リスクが低ければどこかで下げ止まる。つまりこれ以上は株価が下がりにくい状況になる。そこで買えば、どこかで上昇に向かう。  
株価の底を見極めるにはどうするのですか。  
業績がさえない株はPBR(株価純資産倍率)が1倍割れだとか一般的な指標を参考にする。今は無額面株になったので分かりにくいかもしれないが、額面は一つの基準になる。日本コークスは50円。同株は有配銘柄なので額面割れはないとみて50円に近づき始めた時を狙った。同じ額面の南海辰村建設株は12年に26円に下がった。無配株なので額面割れもあり得るとみていた。